

第4学年2組 社会科学学習指導案

授業日 平成27年9月30日(水) 授業A

授業者 附属新潟小学校 教諭 八幡 昌樹

会場 4年2組教室

1 単元名 さいがいからまちを守るために

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容(4)に準じて設定したものである。

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

本単元は、「地域社会における災害及び事故の防止」における、災害の防止にかかわって火事について学習する小単元である。

私たちは誰もが安全に毎日を過ごしたいと願っている。その願いを叶えるために、子どもたちの身の回りには様々な工夫や努力がある。消防は火災発生時に消火活動を行ったり火災予防を呼びかけたりする等、生命・身体・財産を守ることを仕事としている。また、地域住民も消防団を組織したり防災避難訓練を実施したりするなどの活動を通して、万が一災害が発生した時に備えて、協力して共に助け合う取組を行っている。しかし、子どもたちのほとんどは、これらの多くの人たちに支えられて安全な生活ができていないことを意識していない。日常に当たり前にあるものとしてとらえている。だから、ここで大切になるのは、公的機関による「公助」、地域住民が協力して共に助け合う「共助」、自らの命を自分で守る「自助」という3つの観点から学習を進めることである。この3つが連携することによって、地域社会のみんなが安全に生活できるようになるのである。

現在の新潟市には、消防局が1つ、各区に1つずつ8つの消防署、27の消防出張所があり、915人が消防に携わる仕事に従事している。市内のどこにいても近くに消防の施設があり、どのような種類の火災にも対応できる様々な種類の消防車両が常備されている。119番通報は、高機能消防指令管制センターによって処理され、迅速な出動指令や関係機関への連絡が行われている。24時間体制でいつどのような火災が発生してもすぐに出動して対応できる体制が整っている。また、73の分団からなる新潟市消防団には、6,030人の市民が協力している。自分の職業がありながら、地域の安全を守りたいという思いから、ボランティアで可能な範囲の活動を行っている。火災発生時には、消防署と連携して消火活動を行ったり現場周辺の安全を確保したりする作業を行う。また、日常的に火災発生防止を地域に呼びかける活動も行っている。その意味で、消防団が地域の安全を守ることに大きく寄与していると言える。

このように、消防署を中心として関係機関に従事する人々や消防団で活動する人々が協力して活動することによって、火災から地域の安全を守る工夫や努力をしているのである。

しかし、近年の火災発生件数は、ほぼ150件と大きな変化はなく、平成26年は160件だった。消防署や消防団がこのように地域の安全を守るために取り組んでいるのに、火災の発生件数はなかなか減らないという現状がある。また、平成22年6月には、秋葉区小須戸において、商店街で出火し、多数の住宅、店舗等を焼き、全半焼した建物は21棟にも及ぶという大きな火災が発生した。けが人はなかったが、13世帯35人が被災することとなってしまった。出火原因は特定されていないが、木造住宅の密集や強風による影響で、火が短時間で燃え広がったことが被害を大きくしたとされている。この時には、市内各地から合計で19台の消防車が出動し、消火活動を行った。この火災から離れた場所であっても、消防団は自分の地域の火災に備えて待機する要請も出されるなど、影響は離れた地域にも広がっていた。火災は一瞬にしてそれまであった大切なものを奪っていくとても怖いものである。それは、直接的に周辺の住民にも被害を及ぼすだけでなく、間接的には離れた場所の住民の生活にも影響を及ぼすことになってしまうのである。

本単元では、消防署が火災から地域の安全を守っていること(公助)、消防団を中心として地域の人々が火災から自分たちの暮らす地域の安全を守っていること(共助)を、自分の生活とのかかわりから考えさせていく。そして、公助・共助だけでは火災は減らない、たった一度の火災でも大きな被害をもたらすという事実から、自分も消防署と消防団の人たちと同じように火事から地域を守るために、火事を起こさないようにすることが地域社会に協力すること(自助)だという認識をもてるようにする。安全に生活するために、様々な立場の人々が共通の思いや願いをもって、様々な工夫や努力をしているこ

とに共感させたり、自分の生活とのかかわりを実感させたりして、地域社会の一員として自覚をもてるようにしていく。それが、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことに結び付くものだと考える。

3 本単元で目指す姿と「中核的な知識や技能」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

地域社会の一員として火災に対して地域社会に協力できることを考える子ども

(2) 「中核的な知識や技能」

地域社会の火災に対する取組と自分の生活とのかかわりについての認識

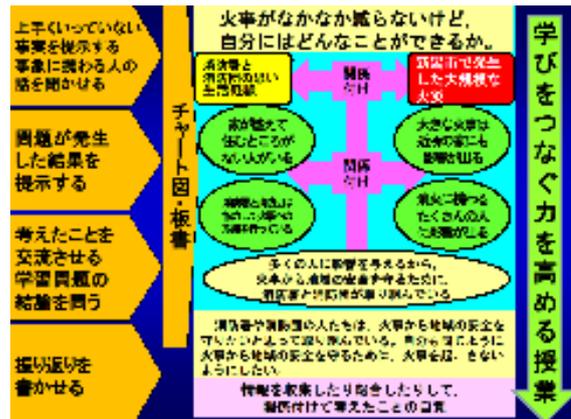
「消防署や消防団の人たちは、火事から地域を守りたいと思って取り組んでいる。自分も同じように火事から地域の安全を守るために、火事を起こさないようにしたい」

(3) 「学びをつなぐ力」

- ① 関係付けるすべを用いて、地域社会の火災に対する取組と自分の生活とのかかわりについて考えるために必要な情報を収集する力
- ② 関係付けるすべを用いて、既有的知識と収集した情報を総合して、地域社会の火災に対する取組と自分の生活とのかかわりについて考える力

4 指導計画 全12時間 (360)

単元カード参照



5 指導の構想

子どもはこれまでに、火災について消防署の見学や学校周辺にある消防設備の調査、消防団の方へのインタビューといった問題解決的な学習を通して、火災に携わる人々の工夫や努力についての具体的な知識を習得している。そして、消防署と消防団の取組について「どちらも火事から地域の安全を守りたいという同じ思いをもっている」という共通点、事象同士の関連に気付いている。しかし、火災について、自分が地域社会に協力できることは何かという視点からは考えてはいない(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け 1

火災の発生件数が減少していない事実を提示し、この事実に対しての消防団の方の話を聞かせる。

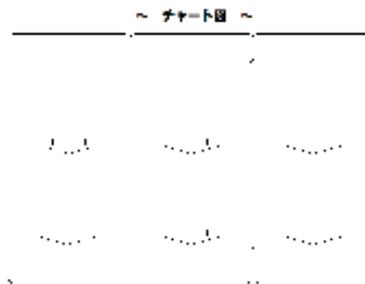
地域社会と自分の生活とのかかわりについて、問いをもたせるための働き掛けである。火災について、地域の安全を守りたいという共通の思いがあることに気付いた子どもに、新潟市における火災発生件数が減少していない事実を提示する。子どもは、これまでの学習から「消防署や消防団の人たちが火事から地域の安全を守りたいという同じ思いで工夫や努力をしているはずなのに、なぜ火災の発生件数はなかなか減少しないのか」と考える。そこで、火災発生の原因が分かるグラフを提示する。すると子どもは、たばこの不始末や台所のこぼれなど、生活の中に火事の原因となるものが多いことに気付く。さらに、火災の発生件数が減少していない事実に対して消防団の方が「火事が減らずに残念だ。私たちの力だけでは、火事を防ぐことは難しい」と考えている話を聞かせる。この話は、火災を防ぐために自分がかかわる必要性に目を向けさせる内容で、事前に撮影した動画である。すると子どもは「それなら自分はどうしたらいいのだろうか」と疑問に思い、それを学習問題として設定する。そこで、学習問題に対する自分の考えを問う。子どもは、既有的知識や生活経験を基にして、自分が生活の中でできることを考える。

働き掛け 2

新潟市で発生した実際の火事の様子(「対象」)を提示し、分かった事実と、事実について解釈したことを「チャート図」にまとめさせる。

地域社会と自分の生活とのかかわりについて考えるために必要な情報を収集させるための働き掛けである。学習問題について、自分に何ができるかを考え始めた子どもに、新潟市で発生した実際の火事の様子(「対象」)を提示する。子どもは、資料の読み取りを通して、火災の発生による被害の大きさに気付く。そこで、「チャート図」を提示し、新潟市で発生した実際の火事の様子(「対象」)から

分かった事実、事実について解釈したことを順に問い、整理してまとめさせる。すると子どもは、「家が17軒も火事になって燃えてしまったことが分かる」「19台の消防車が出動した」などと分かった事実を記述する。「家が燃えてしまって、住むところがない人がある」「火事は大きくなると自分の家だけでなく、近所の家にも影響が広がってしまう」などと事実について解釈したことを記述する。そして、このような火災が発生することによって、自分の生活だけでなく周辺の住民、離れた場所で暮らす人々の生活に大きな影響を与えること、その解決に多くの人々を巻き込んでしまうこと、火事を起こしてはいけないなどと考えるようになる。



働き掛け3

考えたことを交流させた後、学習問題の結論を問う。

地域社会と自分の生活とのかかわりについて考えさせるための働き掛けである。「チャート図」に事実と解釈をまとめた子どもに、学級全体でお互いの考えを交流させる。その時に、火災が発生することによって多くの人に与える影響、その問題への消防署や消防団の取組に関する意見に対しては、考えをはっきりさせるために問い返す。そうすることによって、話題を地域社会と自分の生活とのかかわりに焦点付けていく。子どもは、「多くの人に影響を与えるから、火事から地域の安全を守るために消防署と消防団の取組が行われている」と考える。そう考えた子どもに、学習問題の結論を問う。すると子どもは、これまでに収集した情報を総合して、「消防署や消防団の人たちは、火事から地域を守りたいと思って取り組んでいる。自分も同じように火事から地域の安全を守るために、火事を起こさないようにしたい」などと考え、**地域社会の一員としての自覚をもつ子ども**になる。

「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け

学習問題が解決した後に、振り返りを書かせる。

学びをつなぐ力の有用性を自覚させるための働き掛けである。学習問題が解決した後に、そこまでの学習を振り返らせ、どのような考え方をしたのかを問う。すると子どもは、「関係付けるすべを使ったら、火事に対して自分が地域社会に協力できることを考えることができた」と学習問題を解決するまでの考え方を振り返り、学びをつなぐ力の有用性を自覚するようになる (C n)。

6 本時の構想 (本時 12/12時間)

(1) ねらい

関係付けるすべを用いて、消防署と消防団の火災に対する共通の思いと実際に発生した火事の様子とを結び付けて、地域社会の火災に対する取組と自分の生活とのかかわりを考えることができる。

(2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 生活経験から火の取扱いに気を付ける必要性を感じている。
- 火災に携わる人々の工夫や努力についての具体的な知識を習得している。
- 消防署と消防団の取組について共通の思いをとらえ、その関連に気付いている
- 火災について、自分が地域社会に協力できることという視点からは考えてはいない。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 前時の学習を振り返る。
 - ・発問「この前は、どんなことを学習しましたか」
 - ・説明「そうですね。消防署と消防団の方が、火事から人々の命、安全、町を守りたいという同じ気持ちをもっていることを学習しました」
 - ※ 拡大した「チャート図」をホワイトボードに掲示しておく。
- 新潟市における火災発生件数が減少していない事実を提示する。
 - ・指示「それでは、今日はこの資料について考えることから始めましょう」
 - ※ 資料1 (新潟市で発生した火事の件数) をテレビに映す。
 - ・発問「これは何を表したグラフですか」
 - ・説明「これは、これまで5年間の新潟市で火事が発生した件数を表したグラフです」
 - ※ 拡大した資料を掲示する。
 - ・発問「この資料から、火事の発生件数はどのように変わっていますか」

- ※ 補助発問：「他にありますか」
- ・発問「このグラフを見て、考えたことはありますか」
- 火災発生の原因を提示し、火災発生件数が減少していない事実に対する消防団の方の話を聞かせる。
- ・説明「これは火事が発生した原因を表したグラフです」
 - ※ 資料2（新潟市で発生した火事の原因）をテレビに映す。
- ・発問「どんな原因が多いですか」
- ・発問「このグラフを見て、考えたことはありますか」
- ・説明「生活の中に火事が起きる原因があるようですね」
- ・指示「それでは、火事がなかなか減らないことについて、消防団の方がどう思っているか、話を聞きました」
 - ※ 資料3（消防団の方の話を撮影した動画）をテレビに映す。
 - ※ 動画の内容
 - 「火事が減っていかないというのはなかなか残念です。火事というのは、命や財産を奪ってしまいます。そして、私たち消防団、消防署員の方々も一生懸命努力しています。ですが、火事を防ぐということは、なかなか難しいです」
 - ※ 写真を黒板に掲示する。
- ・発問「この話を聞いてどんなことを思いましたか」
 - ※ 補助発問：「今の考えにつなげられる人はいますか」
 - ※ 自分の行動について考えた発言を受けて、学級全体で自分がどうしたらいいかを考えるように焦点化する。
- どのような学習問題を設定するかを問う。
 - ・説明「自分がどうしたらいいかを考えているようですね。それでは、学習問題は『火事がなかなか減らないけど、自分はどうしたらいいだろうか』でいいですか」
 - ※ 設定した学習問題に同意できるか確認する。確認できたら、次の働き掛けへ進む。
 - ※ 学習問題を黒板に書き、青い四角で囲む。
 - ・発問「学習問題に対して、どんなことを考えますか」

このようになり (01)

- 前時の学習を振り返る。
 - ・消防署で働く人も消防団で活動する人も同じことを思っていた。
 - ・どちらも火事から地域の安全を守りたいということが同じだった。
- 新潟市の火災発生件数を表したグラフから分かることを考える。
 - ・新潟市で発生した火事の数分かるグラフだ。
 - ・毎年だいたい150件くらい発生していて大きくは変わらない。
 - ・平成25年だけが少ない。
 - ・平成25年にせつかく少なくなったのに、平成26年にはまた増えている。
 - ・消防署や消防団ががんばっても火事の発生件数はあまり減っていない。
 - ・なぜ消防署や消防団ががんばっているのに、火事の発生件数は減っていないのだろう。
- 火災発生の原因を表したグラフから分かることを考え、火災発生件数が減少していない事実に対する消防団の方の話を聞く。
 - ・火事の原因は、たばこの不始末が多い。
 - ・台所のこんろも多い。
 - ・家の中で生活しているときに関係することが多い。
 - ・消防団の方が言っていることは、消防署や消防団の力だけでは火事を減らすことはできないということだ。
 - ・ぼくたちが火事にならないように気を付けることが大切だということかな。
 - ・火事を防ぐためには、消防署や消防団の人たちの力に頼るのではなく、自分のことを考えないといけない。
- 学習問題を設定する。
 - ・自分がどうしたらいいかを考えるといい。
 - ・学習問題は、自分はどうしたらいいかを考えることでいいと思う。
- ◎ 火事がなかなか減らないけど、自分にはどんなことができるか。(学習問題)
 - ・家の中で火を使うときに気を付ける。
 - ・火事を起こさないようにする。

このように働き掛けると【働き掛け2】

- **新潟市で発生した実際の火事の様子（「対象」）**を提示する。
 - ・指示「この資料を見てください」
 - ※ 全員に資料4（新潟市で発生した実際の火事の様子）を配付し、拡大した資料を掲示する。
 - ※ 読み聞かせを行い、分からないことがあれば質問させる。
 - ※ 新潟市の地図で秋葉区小須戸の場所を確認する。
 - ・発問「この資料からどんなことが分かりますか」
 - ・説明「そうですね。実際に火事が発生した様子が分かりますね」
- **チャート図**を提示し、「対象」から分かった事実と、事実について解釈したこととをまとめさせる。
 - ・指示「それでは、「チャート図」に資料から分かったことを書きましょう」
 - ※ 机間巡視し、書き方が分からない様子が見られたら、個別に対応する。
 - ・発問「この資料から分かったことは何ですか」
 - ※ 資料から分かったことを、白色チョークで板書する。
 - ・指示「分かったことから、考えられることを書きましょう」
 - ※ 机間巡視し、書いている様子に応じて個別に対応する。
 - ・発問「分かったことからどんなことが考えられますか」
 - ※ 分かったことから考えられることを、黄色チョークで板書する。
 - ※ 補助発問：「今の考えにつなげられる人はいますか」
「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」

このようになり (G2)

- 新潟市で大規模な火災が発生した事実を知る。
 - ・こんなに大きな火事があったんだな。
 - ・たくさんの家が火事で燃えている。
 - ・秋葉区は自分の住んでいるところからは離れているけど、小須戸はどの辺りにあるのだろう。
 - ・火事になったときはどんな様子だったのだろう。
- 新潟市で発生した実際の火事について、「チャート図」に資料から分かったこと、考えたことをまとめる。
 - ・分かったことは、午後0時半すぎに新潟市秋葉区小須戸の商店街で火事が起きた。
 - ・17軒の家が火事で燃えてしまった。
 - ・消防車が19台も出動した。
 - ・約6時間かかって火が消えた。
 - ・煙がたくさんあがっている。
 - ・けがをした人はいなかった。
 - ・分かったことから考えられるのは、消防車が19台も出動したのに、消火するのに6時間もかかってしまうくらい大きな火事だった。
 - ・消防車が19台だから、新潟市のいろいろなところから集まってきたのだろう。
 - ・家が17軒も燃えてなくなって、住むところがない人がいる。
 - ・火事は大きくなると自分の家だけでなく、近所の家にもまで影響が広がってしまう。
 - ・たくさんの人が火事に巻き込まれて被害を受けてしまった。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 学級全体でお互いの考えを交流させる。
 - ・発問『「チャート図」にまとめたことについて、何か考えたことがありますか』
 - ※ 補助発問：「今の考えにつなげられる人はいますか」
「〇〇さんの言いたいことが分かりますか」
 - ※ 火災が発生することによって多くの人に与える影響、その問題への消防署や消防団の取組に関する意見に対して問い返し、話題を地域社会と自分の生活とのかかわりに焦点付けていく。
 - ※ 補助発問：「これまでの学習とつながることはありますか」
「たくさんの人とは例えば誰のことですか」
- 学習問題の結論を問う。
 - ・発問「これまでの話合いから、今日の学習問題『火事がなかなか減らないけど、自分はどうしたらいいだろうか』については、どのような結論になりますか」

- ※ 「協力」という言葉が出てきたら、何を意味しているのか問う。
- ※ 補助発問「協力とはどういうことですか」
- ・指示「今日の学習問題の結論を自分の言葉で書いて、まとめましょう」
- ※ 自分の考えをノートに記述させ、赤い四角で囲ませる。

このようになり (C3)

- 「チャート図」にまとめたことを基に、考えたことを話し合う。
 - ・火事は被害が大きくなるから、やっぱり怖いものだ。
 - ・火事は大きくなると自分の家だけでなく、近所の家にも影響が広がってしまう。
 - ・何台も消防車が出動したとしても、消火するのに時間がかかってしまう。
 - ・たくさんの人が協力しないと火事を消すことはできない。
 - ・だから、消防署も消防団も火事に備えたり火を早く消したりしている。
 - ・多くの消防車が出動すると、離れた消防団も準備しなければならないと消防団の方が話していた。
 - ・その火事の近くにいる人だけでなく、離れたところに住んでいても消防団の仕事を準備しなければいけない。
 - ・一つの火事が原因で、消火に携わるたくさんの人が影響を受けてしまう。
 - ・多くの人に影響を与えるから、火事から地域の安全を守るために消防署と消防団が取り組んでいる。
- 学習問題に対する結論を考える。
 - ・火事を起こすと大変なことになるから、火事を起こさないことが大切だ。
 - ・たくさんの人が火事から安全を守るために働いているから、自分も同じ気持ちで火事から安全を守るために、火事を起こさないようにして力になりたい。
 - ・消防署や消防団の人たちは、火事から地域を守りたいと思って取り組んでいる。自分も同じように火事から地域の安全を守るために、火事を起こさないようにしたい。

このように働きかけると【「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け】

- 学習問題が解決した後に、振り返りを書かせる。
 - ・指示「学習問題を解決した後の振り返りを書きましょう。どのような考え方をしたら、どんなことが分かりましたか」
 - ※ 学習の振り返りをノートに記述させる。

このようになる (Cn)

- これまでの学習を振り返り、学習内容と自分の思考を自覚する。
 - ・関係付けるすべを使ったら、自分が火事を起こさないことが地域に協力できることだと考えることができた。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な知識や技能」を獲得することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3において、_____のように、地域社会の火災に対する取組と自分の生活とのかかわりについての認識をもつことができたか、「チャート図」の記述から検証する。
- ②-1
働き掛け2および3において、_____のように関係付けるすべを用いて、学習問題を解決する情報を収集することができたかを、「チャート図」の記述、発言から検証する。
- ②-2
働き掛け3において、_____のように、関係付けるすべを用いて、既存の知識と収集した情報を総合して、地域社会の火事に対する取組と自分の生活とのかかわりについて考えることができたかを、「チャート図」の記述から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛けにおいて、_____のように、学びをつなぐ力①②のいずれかを自覚しているかを、ノートの記述から検証する。